

## 2020.9.2 鳥甲山

メンバー：朝倉

コースタイム：6：15 ムジナ平登山口—9：30 白クラの頭—10：45 鳥甲山山頂 11：00—11：30 赤クラの頭—13：30 屋敷登山口—15：00 ムジナ平登山口

鳥甲山は秋山郷の西に隣接してそびえ、よく屏風を広げたようとか、鷲が翼を広げたようとか形容される。この山の東面は崩落が進み山頂から麓までちぎり取ったかのように登山道はその縁を縫うようにつけられており、したがって険しい山道となっている。

登山道に入るといきなりの急登が始まる。山毛櫨をはじめとした広葉樹林のなかにクマよけの音が心細く響く。昨日林道で遭遇しているしこの辺りあたりまえにその辺に生息していそうだ。1時間強もそんな急登を登り詰めるとやせ尾根になり樹木の丈も低くなり通り過ぎていく秋の風が火照った体に気持ちがい。

やせ尾根の急登を更に登るとやがて針葉樹林帯に入りようやく白クラの頭の標識が現れた。少し休んだ後、一旦下降し前方の四角く切り立った断崖をぬっていく。両側はすっぱりと切れ落ちていて鎖がかけられているが、草や灌木に覆われているので恐怖感はあまりない。この岩場を通過するとやや開けた斜面が立ちはだかる。はるか下方に樹林の中に広がる秋山郷が俯瞰される。晴れてはいるが苗場も志賀方面も山頂付近にはガスが架かっている。風がかなり強くなった。

最後の急登を登りきると山頂だった。約束したようにここでもキアゲハが迎えてくれた。山頂は周りをまばらに丈の低い針葉樹に囲まれており眺望はあまりよろしくない。その代わり強風を和らげてくれた。

下山は屋敷口にとった。赤クラの絶壁が高度感を伴って落ち込んでいる。登山道は、その赤クラの縁の通過と急下降の組み合わせで後半は急激な下降がどこまでも続いている感があった。